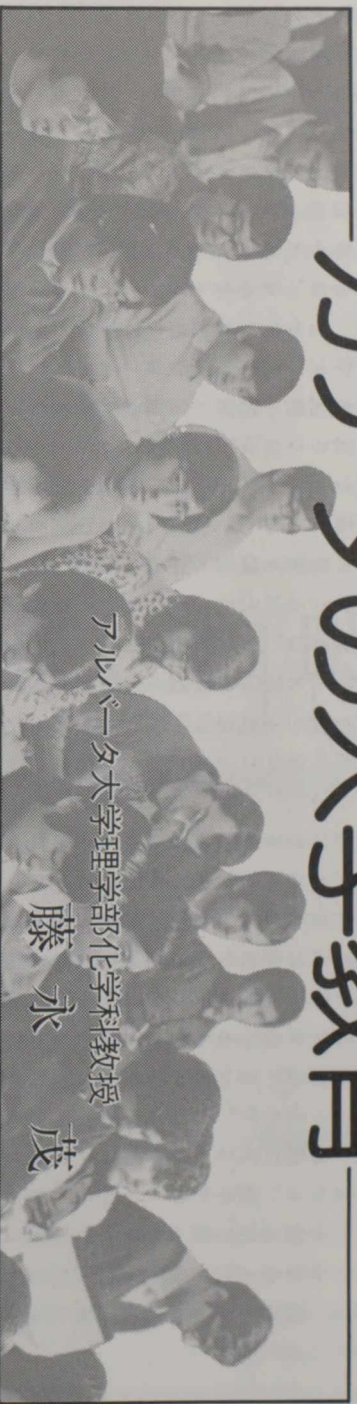


カナダの大学教育



アルバータ大学理学部化学科教授

藤永茂

はじめに

外国生活を体験した日本人がその国の事情を正しく伝えるのは、一般に考えられていよりも困難なことだと思ふ。テレビ、新聞、書物を含めて、個人の見聞

個人の体験というものは何といつても限られたものだからだ。その上、異郷での経験は強烈にその人の感性の中核にひびくものであり、それに基づいて主観的な偏った判断が下され、それが一般的な事実として伝えられ勝ちである。

一九六八年の春、私は妻と二人の息子

をつれてカナダに移住し、アルバータ州エドモントン市にある州立アルバータ大

学化学科の教授の職についた。二人の息子は今は同大学の学生で、長男は数学と音楽のふたまたまがけて勉強をつづけ、次男の方は生化学へ進むつもりのようにであ

る。そこで、学生の立場、教師の立場の両方から、カナダの大学教育の一斑をとりえてみようと思ふ。私たちの直接の経験は限られたものでしかないが、アルバータ大学がカナダの大学として平均的な大学の一つであることは、十分注意して

たしかめたつもりである。

入学試験

大学入試は日本と同じ意味では存在し

ない。もちろん、ある学部の入学志望者の教が収容人員を上まわる場合には、選抜が行なわれる。医学博士として身をたてようとする学生は、医学部学生として

の四年の本格的コースに入るまえに、少なくとも二年間は適当な講義に出席して単位を修得しなければならない。アルバー

タ大学では、成績は九点満点で採点されるが、この二年間の準備期間に取るコースの平均点が六点以上なければならぬ

ことになっている。しかし、これは必要下限であつて、実際にはその平均点が八

点あたりでなければ医者になる望みは捨てなければならぬ。そのため、志望の

学生たちは真剣に勉強する。時折、それが行き過ぎて、「自分は医学部志望だから、こんな点をつけてもらつては困る。

もっと良い点に直してくれ」と、しつこく迫る学生が出てきて、手をやくことも

ある。しかし、医学、法学関係のぞく学部では、正常な成績で高校を卒業すれば

学部学生寄宿舎(中央の平たい建物に学生食堂がある。)



は、大体希望する学科に入学することができる。

入学してから

学十号を目的とする場合は大体四年が必要な学年数で、一年は、九月から十二月の第一学期、一月から四月の第二学期の八ヶ月の勉強期間と、四ヶ月の夏休みからできてゐる。夏の間は、何か職業について、大学生生活を送るための費用を稼ぐ学生が多い。

講義についての試験は、各学期の中ほどと終りにあり、二つの学期にわたる全年コースでは、第四回目が最終試験として最も重要なものである。講義の全期間

にわたつて宿題もよく出るので、良い成績をとるためには常に緊張して勉強を続けなければならぬ。

この点、カナダの大学はアメリカの大学と同じで、イギリスの大学の場合のように、卒業まえに集約的に重要な試験はな

い。トロント大学の構成は一見イギリス風にも見えるが、実質的にはアルバータ

大学と余り変わらないようである。

日本では入試の難関を突破した学生は

大学では勉強しなく